



第 62 期

株主の皆様へ

平成24年4月1日▶平成25年3月31日



Contents

私たちってこんな会社です！	1
連結財務ハイライト	2
トップインタビュー	3
セグメント別の概況	5
TK NEWS FLASH	7
連結財務諸表	11
会社情報	13
株式情報	14

TK 高千穂交易株式会社
TAKACHIHO KOHEKI CO.,LTD.

証券コード2676

技術商社として、「創造」を事業活動の原点に据え

- ・テクノロジーをととして、お客様のご満足を高めます。
- ・技能と人間性を磨き、世界に通用する信用を築きます。
- ・力を合わせて、豊かな未来を拓き、社会に貢献します。

Technology

■ テクノロジー

「技術商社」として世界の先端技術商品を市場に提供し、顧客企業の価値向上に貢献します。
その土台となるのが、全社員の41.5%を占めるエンジニア系社員です。

Top share

■ トップシェア

万引き防止システムや、ATM向けのスライドレール市場で、国内トップシェアを誇ります。
豊富な経験・ノウハウを活かし世界でのシェア拡大を目指します。

私たちってこんな会社です！

New business

■ NEWビジネス

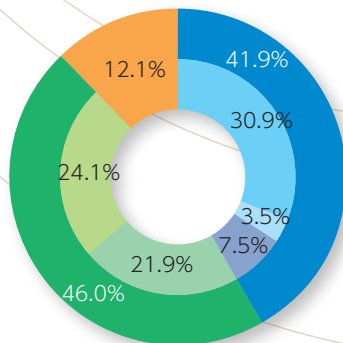
持続的な成長サイクルの確立を図るため、新規(事業・市場・商品)の創出をテーマに活動を強化し、特にターゲットとする分野の市場形成と拡大に注力します。

Global

■ グローバル

米国、中国(香港・上海)、タイ(バンコク)を拠点として、一層グローバルビジネスを拡大させてまいります。

セグメント別：主要取扱い品目と売上構成比



■ システム

■ セキュリティ商品類

リテール：万引き防止システム、CCTVシステム、入店カウンターシステムなど
オフィス：入退室管理システム、資産持出し防止システムなど

■ メーリング商品類

メールインサートシステム、アドレッシング用インクジェットシステム、ラベリングシステムなど

■ その他(新規事業)商品類

RFID図書館管理システム、RFID資産管理システム、ストアマネジメント関連システム、ネットワークセキュリティ関連機器など



■ デバイス

■ 電子商品類

半導体、シリコンマイク、各種センサーなど

■ 産機商品類

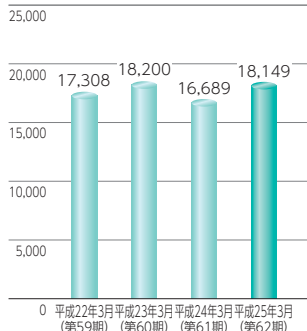
スライドレール、ガススプリング、昇降システムなど

■ カスタム・サービス

システム機器の設置・保守、コンサルティング及びシステム設計、システム運用受託など

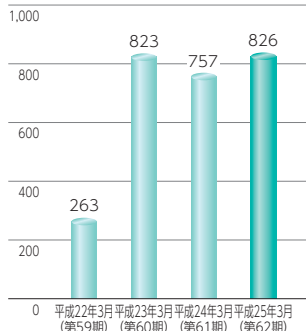
売上高

(単位：百万円)



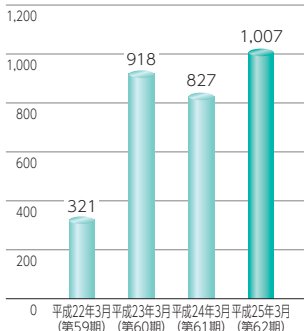
営業利益

(単位：百万円)



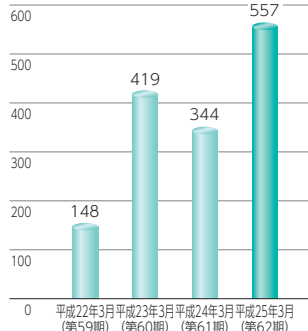
経常利益

(単位：百万円)



当期純利益

(単位：百万円)



平成25年3月期(第62期)決算のポイント

システムセグメントの好調により増収増益を達成

- 新たにグループ会社になったマイティカードとタイ現地法人が大きく貢献
- 経常利益・当期純利益は計画も達成

売上総利益(粗利益)率が引き続き改善

- 粗利益率の高い商品の売上構成を増やしたことにより前期の27.8%から28.7%へ伸長

次期見通しのポイント

- 独自の付加価値の創出とグローバルビジネスの本格展開により増収増益を計画

平成26年3月期 連結業績予想

売上高	19,700	百万円	(前期比)	8.5%増
営業利益	1,020	百万円	(前期比)	23.4%増
経常利益	1,050	百万円	(前期比)	4.3%増
当期純利益	560	百万円	(前期比)	0.5%増

TOP INTERVIEW

トップインタビュー



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
当社第62期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)
の事業活動の概況をご報告申し上げます。

平成25年6月
代表取締役社長 戸田 秀雄



Q まずは平成25年3月期業績の総括をお願いします。

A この平成25年3月期は、新たな成長を見据えて、「独自の付加価値創出とグローバルビジネスの本格展開」を中期事業方針に掲げ、その実現に向けて取り組んでまいりました。独自の価値を加えることで競争力強化を図るとともに、アジアを中心とした成長市場へビジネスを展開することで事業の拡大を狙ったものです。

このような方針のもとに運営してきた平成25年3月期は、売上高では計画に若干届かなかったものの前期にグループに加わった2社が大きく牽引し増収となり、損益では企業買収に伴う販管費の増加を上回る売上総利益の増加や、為替差益などにより増益となりました。

新たにグループ会社となった2社は当社では数年ぶりの大型投資ではありましたが、マイティカード(株)はRFID事業を通じた独自の付加価値創出で、Takachiho Fire, Security & Services (Thailand) Ltd.はグローバルビジネスの本格展開で、それぞれ期待通りの特色を発揮し業績に大きく貢献するようになりました。

セグメント別に見ると、この2社はシステムセグメントに属するため、今までデバイスセグメントに偏っていた構成比がフラットとなり、バランスがよくなりました。しかし、これはデバイスセグメントの伸長率がシステムに比べて低かったのも要因の一つです。デバイスの中の産機事業が中国のATM(現金自動預け払い機)向け機構部品や遊技市場向け機構部品の販売等で順調に推移したものの、電子事業は産業機器市場へのアナログ商品の拡販遅れなどにより減収となっています。

今後も「独自の付加価値創出とグローバルビジネスの本格展開」の中期事業方針のもとで、全事業分野がそれぞれの戦略を確実に実行し、グループ一丸となって更なる成長を実現してまいります。



Q 平成26年3月期は どのような見通しですか。

A 平成26年3月期の見通しは、売上高197億円、営業利益10億20百万円、経常利益10億50百万円、当期純利益5億60百万円の増収増益を計画しています。引き続き、「独自の付加価値創出とグローバルビジネスの本格展開」という方針のもと、グループ全社を挙げて活動してまいります。

具体的には、システムセグメントでは既存事業の付加価値強化に加え、新規成長市場への事業拡大として今期好調に推移したマイティカードやタイの現地法人を始めとするグループ会社の事業拡大、更にはiQレーン(レジ待ち時間短縮によるCS向上を目的としたチェックアウトマネジメントシステム)等のリテールソリューション事業の本格展開を目指してまいります。デバイスセグメントでは、電子事業は産業機器市場でのシェア拡大を中心に収益基盤を再構築して成長のトレンドへ転換を図り、産機事業では国内新規市場の開拓、中国ローカル企業への販売拡大などを行ってまいります。



Q 新規ビジネスには どのようなものがありますか。

A まずは、マイティカードを中心に推進中のRFID(無線ICタグ)事業については、バーコードに代わる画期的な技術として小売業等における在庫・流通管理システムでの活用が検討されていることを昨年お話しましたが、具体的に大きな成功事例が出てきています。例えば、大手アパレルショップでは、RFID内蔵の商品タグを装着することで、従来の商品セキュリティ機能に加えて、レジ作業や棚卸し作業時間の大幅短縮・効率化を実現するとともに、販売促進ツールとしての活用も進め

られており、こうした動きは業界全体に広がるものと期待しています。また、東南アジアでのビジネスチャンスの拡大も想定して、RFID技術で先駆的なアジアのベンチャー企業への出資も行っており、RFID事業をグループ全体でダイナミックに展開していきます。

その他に新たにラインアップした商品には、システムセグメントでは米国メラキ社の無線LANシステム、デバイスセグメントでは米国アナログ・デバイス社の半導体があります。TK NEWS FLASHページでも新規事業をご紹介しますのでご覧ください。



Q 電子事業の状況はいかがですか

A 前期に引き続き減収となっていますが、中にはゲーム機市場向けのシリコンマイクの販売が好調であったり、一昨年に販売を開始した汎用アナログ・パワーICが順調に販売を伸ばしてきているなど明るい材料もあります。

しかし、メインターゲットにしていた半導体製造装置、計測機器、通信基地局、医療機器など、より高付加価値提案が求められる産業機器市場は、本格的な景気回復には至っておらず、また提案できるアナログ商品が少ないことなどから業績回復は実現できていません。

そのような状況の中、今年1月に前述のアナログ・デバイス社の半導体を指定販売代理店として取り扱いを開始しました。アナログ・デバイス社は世界トップクラスの半導体メーカーで、品揃えも多く、これまでに長年当社が培ってきたアナログ半導体の販売ノウハウを大いに活かせる商品だと考えています。これを契機に業績を回復させ、電子事業を収益基盤の一端を担う事業として再構築を図ってまいります。

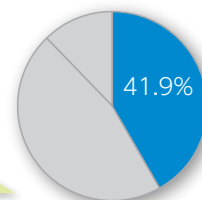
セグメント別の概況

システム：各商品類が好調に推移し増収増益

デバイス：電子商品類が減収となるも産機商品類は増収

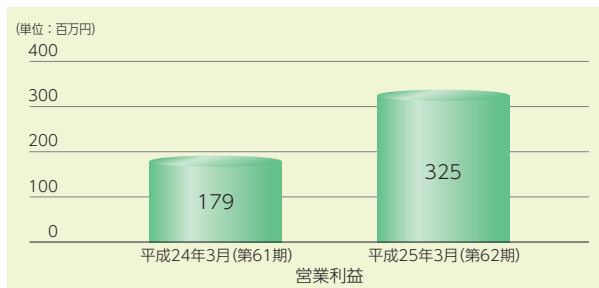
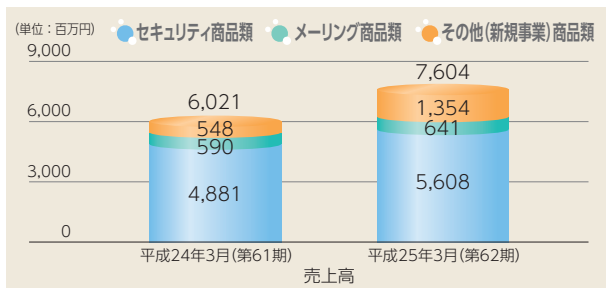
カスタマ・サービス：保守契約の伸び悩みなどにより減収

システム 売上高は前期比26.3%増の76億4百万円、営業利益は前期比81.1%増の3億25百万円



売上高
26.3%増

営業利益
81.1%増



セキュリティ商品類(前期比 14.9%増)

IP(ネットワーク)カメラの販売促進やGMS(総合スーパーマーケット)や小売店向けに商品監視システムの導入、データセンターで入退室管理システムが採用されたほか、タイ現地法人における大規模洪水からの復興需要や日系企業との取引拡大などにより、売上高は前期比14.9%増の56億8百万円となりました。



メーリング商品類(前期比 8.6%増)

新たなインクジェットプリンターの販売強化により大型案件を獲得したことなどから、売上高は前期比8.6%増の6億41百万円となりました。



その他(新規事業)商品類(前期比 146.9%増)

昨年3月に子会社化したマイティカードによるRFID事業での大口案件獲得ならびにレジ待ち時間短縮によるCS向上を目的としたチェックアウトマネジメントシステム(iQレーン)の実績化などにより、売上高は前期比146.9%増の13億54百万円となりました。

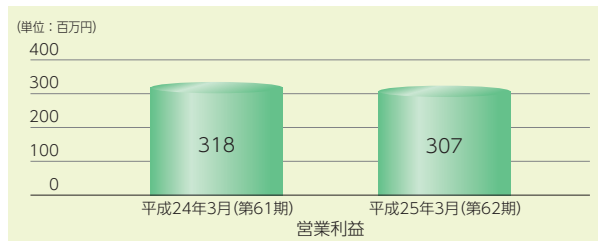
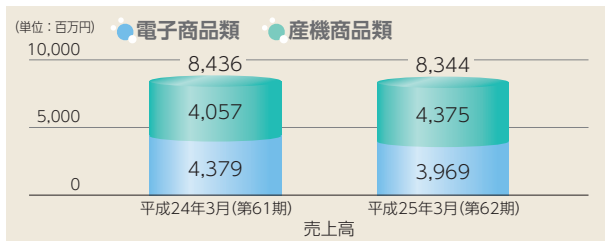


デバイス 売上高は前期比1.1%減の83億44百万円、営業利益は前期比3.4%減の3億7百万円

売上高
1.1%減

営業利益
3.4%減

46.0%



●●● 電子商品類(前期比 9.3%減)

ゲーム機市場でシリコンマイクなどが好調に推移したほか、一昨年販売開始した汎用アナログ・パワーIC製品が販売増となったものの、産業機器市場へのアナログ商品の拡販の遅れなどにより、売上高は前期比9.3%減の39億69百万円となりました。



●●● 産機商品類(前期比 7.8%増)

中国向けに主力のATM(現金自動預け払い機)向け機構部品の販売が堅調に推移したほか、遊技市場向け機構部品の販売が伸長したことなどにより、売上高は前期比7.8%増の43億75百万円となりました。

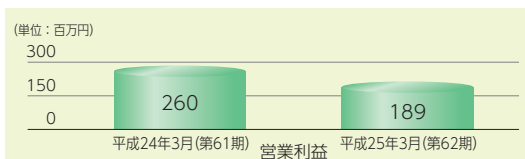
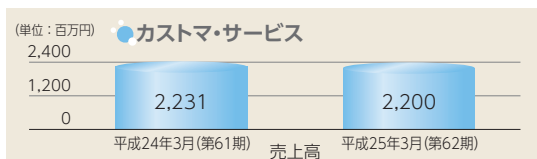


カスタム・サービス 売上高は前期比1.4%減の22億円、営業利益は前期比27.6%減の1億89百万円

売上高
1.4%減

営業利益
27.6%減

12.1%



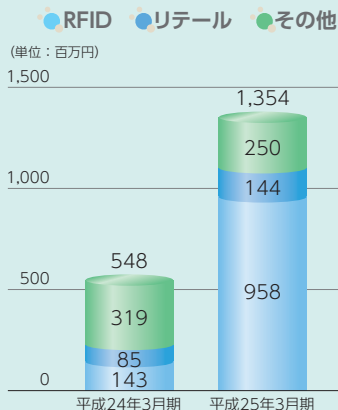
保守契約の伸び悩みなどにより、売上高は前期比1.4%減の22億円、営業利益は前期比27.6%減の1億89百万円となりました。



好調な『その他(新規事業)商品類』の内容とその事例をご紹介します

TOP INTERVIEWにもありますように、当社では「独自の付加価値創出とグローバルビジネスの本格展開」を中期事業方針に掲げておりますが、今までにない新しい商品やサービスを提供することで独自の付加価値を高めることを狙いに、特に新規ビジネスの開拓に注力してきました。平成25年3月期より、それらの成果が表れ始めましたのでご紹介します。それらは主にRFIDやリテールソリューション事業などで、システムセグメントの中の「その他(新規事業)商品類」に含まれます。

その他(新規事業)商品類の平成24年3月期
及び平成25年3月期売上高



マイティカードによるRFID事業が好調。資産管理システムや新たに取り組んだ小売店向け在庫管理システムの大口案件により大幅増収。

リテールソリューション事業では、GMS等ストアマネジメントシステム関連(iQレーン等)の新商品が好調。

●RFID事業(バーコードに代わる次世代の自動認識技術)

<資産管理システム>

金融機関の書類や工場の生産資産等の位置管理や入出庫状況を記録するシステム。平成24年に子会社化したマイティカードが取扱中。

<小売店商品管理システム> (p.9参照)

棚卸や入出荷処理等の棚卸管理、商品監視、販売促進といった多岐にわたる用途で利用。マイティカードが取扱中。

<図書館システム> (p.10参照)

平成17年より、スイス・ビブリオテック社のRFID図書館システムを販売開始。書籍やCD/DVDなどの視聴覚資料にICタグを貼付し、専用端末器でICタグのデータの読み書きをすることにより、図書館の様々な業務の自動化・効率化を図るシステム。

●リテールソリューション事業

<iQレーン>

平成23年より販売開始。出入り口に設置したサーモセンサーによって、入店客数やレジ待ち客数をカウントでき、それらのデータとレジの開閉・精算状況などを照合することで、稼動すべきレジ台数を的確に予測することが可能。そのため店舗側はレジが混雑する前に必要なレジを開放(閉鎖)し、『お客様を待たせない』チェックアウトサービスを実現。レジ待ち時間の解消で顧客満足度の向上を図るとともに、レジチェッカー業務の最適化によりコストダウンの実現にも貢献。

●その他(ネットワークセキュリティ関連など) (p.8参照)

企業や公官庁などのお客様向けに、LAN・WANネットワークセキュリティ、リモートアクセスなどの情報ネットワークシステムを構築。新商品も提案・採用中。

iQレーン用
サーモセンサー



RFID図書館システム





メラキ社と正式取引開始、そして大型案件獲得へ



近年、スマートフォンやタブレットなどのスマート端末の普及に伴い、無線LANネットワーク市場は急速な成長を見せており、BYOD※などの普及とも相まってビジネスシーンへの導入機運も高まっています。一方で、企業への無線LANネットワークの構築には、複数のアクセスポイントを管理するコントローラーの導入や運用コストなどが課題として挙げられています。

そうした中、当社では、クラウドネットワークの先駆者としてクラウド型無線LAN製品をはじめとするネットワーク機器の開発・製造・販売を展開しているメラキ社と、今年1月に代理店契約を締結し販売を開始しました。メラキ社は、

2012年11月にネットワーク機器メーカー大手のシスコシステムズ社による買収が発表され、今後は同社のクラウドネットワーキンググループの一員として、中堅企業から大企業まで世界各国のお客様へ、シンプルかつセキュアなマネージド型クラウドネットワークの提供を目指すなど、そのビジネス展開が注目されます。

この度当社で販売を開始した同社製クラウド型無線LANシステムは、クラウド上にコントローラー機能を有するため、企業側は別途コントローラーを所有する必要がなく、また複数拠点のアクセスポイントへの展開や管理が可能となります。

また、ネットワーク上に存在するデバイスやユーザー、利用するアプリケーションを自動的に分類し可視化することが可能で、全デバイスのトラフィック状況をアプリケーションレベルで制御する機能も備えられています。このような特長により、企業は無線LANネットワークを安全・安価に構築することができます。

これらの機能を評価いただいた結果、大手エネルギー商社様より本システムを採用いただき、メラキ社との正式取引開始後第1号となる大型案件の獲得に成功しました。

当社では、この案件の獲得を皮切りに、スマート端末の導入やBYOD活用を図るお客様への販売活動を強化していきます。

※ BYOD [Bring Your Own Device] (自分のデバイスを持ち込む) の略で、従業員が私物の端末を企業内に持ち込んで業務に活用すること。





セレクトショップ大手のビームス様に 棚卸業務等店舗業務の効率アップにつながるRFIDシステムを納入

当社が取り扱っている商品の中で比較的新しいものに、RFIDシステムがあります。RFIDとは自動認識技術の一つで、物品の情報を記憶する半導体チップと通信用のアンテナを組み込んだRFIDタグを物品に取り付け、それを電波で読み取ることにより、一点ずつではなく一度に複数の物品情報を自動的に認識できるしくみです。

当社でターゲットにしていた図書館の自動貸出返却機や物流パレット管理などの一部の分野での利用以外に、最近では応用範囲が広がりさまざまな分野でRFIDが使われるようになってきました。

当社のグループ会社であるマイティカードではこのRFIDをメインの商品にしており、昨年本格導入としては初めてとなるリテール（小売業）在庫管理用に、ファッションセレクトショップ大手のビームス様に納入しました。ビームス様ではファミリー層を顧客とする新業態のブランド「ビーミングライフストア」の店舗内で、商品にRFIDタグを内蔵した値札をつけ、商品管理に活用いただいています。

この値札をつけていることにより、入出荷時の商品の検品、登録時に、何点も一度にRFIDリーダー（読取機）で読み取ることによる

業務の効率化や、また、RFIDは3～5m先のものも読み取ることができるので、棚卸のときも高い棚にある商品を下に降ろさずに一括で在庫を確認し、品揃えを整えることができます。このような効率アップによって、店舗ではお客様により快適に買い物を楽しんでいただくことに注力できるようになりました。

ビームス様の取り組みはファッション業界で注目されており、今後の拡大が見込まれています。



いま話題の「TSUTAYA図書館」(武雄市図書館様)にRFIDシステム納入

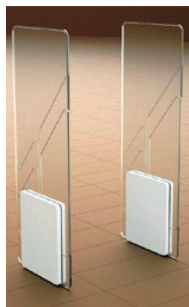
2013年4月1日に開館した佐賀県武雄市にある図書館をご存知ですか？ テレビや新聞等でよく紹介されているのでご存知の方もいらっしゃるかと思います。

市民が誰でも利用しやすく、また利用したくなるような、市民の生活をより豊かにする図書館を作る、という武雄市の構想のもと、DVD・CD・書籍等の販売・レンタルショップ「TSUTAYA」を展開されているカルチュア・コンビニエンス・クラブ様が運営を委託されたことで話題になっています。

カルチュア・コンビニエンス・クラブ様がこれまで積み重ねてこられたノウハウやコンセプトを活かした、これまでにない図書館です。

例えば、開館時間は年中無休で午前9時～午後9時、開架図書を従来の2倍に拡大、陳列は「暮らし方」「楽しみ方」といったライフスタイル別になっています。

更に雑誌・書籍の販売やカフェも併設したことで注目されています。



そのような新しいスタイルの図書館に図書館流通センター様経由にてRFIDシステムを納入しました。今回採用に至ったのは、機能性はもちろんのこと、デザイン性も重要なポイントとなりました。設置場所の景観を損なうことなく様々なデザインを変更できるシステムが、武雄市図書館様の木を基調とした落ち着いた館内にフィットしています。

お近くを訪れた際にはぜひご覧ください。

連結財務諸表

● 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第62期 平成25年3月31日現在	第61期 平成24年3月31日現在	前期比 (%)	増減
(資産の部)				
流動資産	15,558	15,458	0.6	99
現金及び預金	7,207	6,492	11.0	714
受取手形及び売掛金	5,385	5,346	0.7	39
商品及び製品	2,013	2,026	△0.6	△12
固定資産	3,040	2,831	7.4	208
有形固定資産	496	499	△0.7	△3
無形固定資産	1,177	1,170	0.6	6
投資その他の資産	1,366	1,160	17.7	205
資産合計	18,599	18,290	1.7	308
(負債の部)				
流動負債	3,891	3,894	△0.1	△2
支払手形及び買掛金	2,572	2,563	0.3	8
固定負債	840	894	△6.0	△53
負債合計	4,732	4,788	△1.2	△56
(純資産の部)				
株主資本	13,682	13,409	2.0	273
資本金	1,193	1,193	—	—
資本剰余金	1,156	1,156	—	—
利益剰余金	11,630	11,357	2.4	273
自己株式	△298	△298	0.0	△0
その他の包括利益累計額	118	△37	—	156
純資産合計	13,867	13,501	2.7	365
負債純資産合計	18,599	18,290	1.7	308

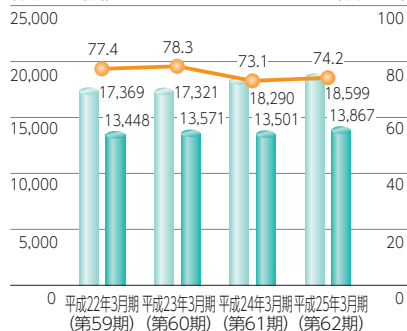
(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

CHECK POINT!

- 保有している有価証券の評価額の増加などにより、投資その他の資産が前期から大幅に増加しました。

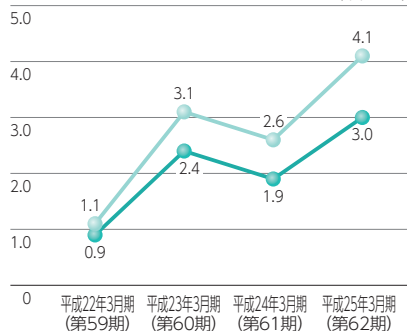
● 総資産 ● 純資産 ● 自己資本比率

(単位：百万円) (単位：%)



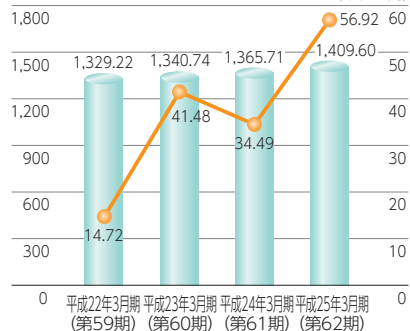
● ROE ● ROA

(単位：%)



● 1株あたり純資産 ● 1株あたり当期純利益

(単位：円)



● 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第62期 平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで	第61期 平成23年4月 1 日から 平成24年3月31日まで
売上高	18,149	16,689
売上原価	12,943	12,053
売上総利益	5,205	4,635
販売費及び一般管理費	4,379	3,877
営業利益	826	757
営業外収益	184	73
営業外費用	3	3
経常利益	1,007	827
特別利益	48	—
特別損失	0	26
税金等調整前当期純利益	1,055	800
法人税、住民税及び事業税	436	368
法人税等調整額	31	91
少数株主損益調整前当期純利益	587	340
当期純利益	557	344

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

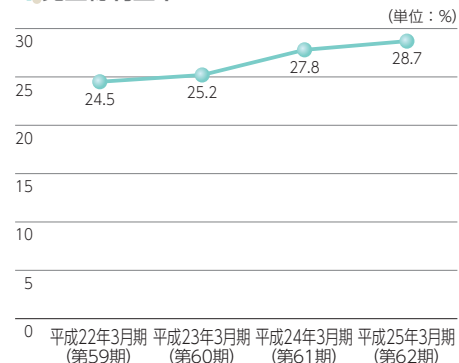
科 目	第62期 平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで	第61期 平成23年4月 1 日から 平成24年3月31日まで	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	746	1,813	△1,066
投資活動による キャッシュ・フロー	214	△1,738	1,952
財務活動による キャッシュ・フロー	△289	△524	234
現金及び現金同等物の 増減額	714	△450	1,164
現金及び現金同等物の 期首残高	5,792	6,242	△450
現金及び現金同等物の 期末残高	6,507	5,792	714

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

CHECK POINT!

売上総利益率は28.7%と、前期の27.8%から0.9ポイントアップと、前期に引き続き上昇しました。

● 売上総利益率



CHECK POINT!

- 1 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が10億55百万円となる中、のれん償却や売上債権の減少があったことなどにより、7億46百万円のプラスとなりました。
- 2 投資活動によるキャッシュ・フローは、子会社株式の取得による支出があった一方、有価証券の償還による収入があったことなどから、2億14百万円のプラスとなりました。
- 3 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払を行ったことなどから、2億89百万円のマイナスとなりました。

● 会社概要

設 立	昭和27年3月
資 本 金 (平成25年3月31日現在)	11億9,381万円
従 業 員 数 (平成25年3月31日現在)	245名 (単体)、463名 (連結)
取引金融機関	みずほコーポレート銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、リソナ銀行、三菱UFJ信託銀行
主 要 業 務	セキュリティシステム、情報ネットワークシステム、ICタグ応用システム、半導体及び機構部品等の輸出入及び販売・据付・保守サービス並びにシステム設計・システム運用受託等サービス
ホームページ	http://www.takachiho-kk.co.jp/

● 事業所

本 社	東京都新宿区四谷1丁目2番8号 Tel.03-3355-1111 (代)
大 阪 支 店	大阪市北区梅田3丁目3番20号 (明治安田生命大阪梅田ビル) Tel.06-6453-1610 (代)
名 古 屋 支 店	名古屋市中村区名駅南1丁目21番19号 (本州名駅ビル) Tel.052-582-2915 (代)
札 幌 営 業 所	札幌市中央区北一条東1丁目4番地1号 (サン経成ビル) Tel.011-223-3552 (代)
九 州 営 業 所	福岡市博多区店屋町8番24号 (九勤呉服町ビル) Tel.092-271-6759 (代)
サ ー ビ ス 網	全国300カ所
米 国 駐 在 員 事 務 所	1400 Fashion Island Blvd. Suite 304, San Mateo, CA, 94404 U.S.A Tel.650-574-3224

● 取締役・監査役

代表取締役社長兼社長執行役員	戸 田 秀 雄
取 締 役 兼 執 行 役 員	小 原 敬 一
取 締 役 兼 執 行 役 員	広 木 邦 昭
取 締 役 兼 執 行 役 員	平 山 英 樹
取 締 役	田 代 守 彦 ※
取 締 役	早 野 勉 ※
常 勤 監 査 役	武 智 良 泰
監 査 役	柴 崎 伸 雄 ※※
監 査 役	小 海 正 勝 ※※
監 査 役	石 原 良 一 ※※

(注) ※は社外取締役です。※※は社外監査役です。

● 執行役員

執 行 役 員	市 川 陽 三
執 行 役 員	横 戸 憲 一
執 行 役 員	平 田 嘉 昭
執 行 役 員	高 山 博 喜
執 行 役 員	赤 堀 寛 人

● 連結子会社

株式会社S-Cube	
事業内容	電子機器による盗難防止及び防犯管理システムの開発及び製造並びに販売
高千穂コムテック株式会社	
事業内容	メーリングシステムの輸出入及び販売並びに開発・サポート・サービス
ジェイエムイー株式会社	
事業内容	各種電子部品の輸出入及び販売
TAKACHIHO KOHEKI (H.K.) LTD.	
事業内容	各種電子部品及び機構部品並びにセキュリティ機器の輸出入及び販売
提凱貿易 (上海) 有限公司	
事業内容	各種電子部品及び機構部品の輸出入及び販売
Takachiho Fire, Security & Services (Thailand) Ltd.	
事業内容	セキュリティシステム、防災用機器等の輸入及び販売・据付・保守サービス
マイティカード株式会社	
事業内容	RFID及び周辺機器のシステム開発並びに販売

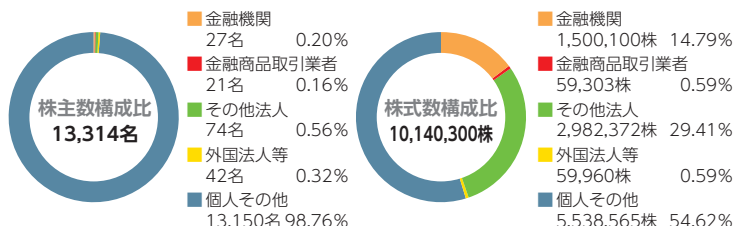
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	10,140,300株
株 主 数	13,314名

● 大株主

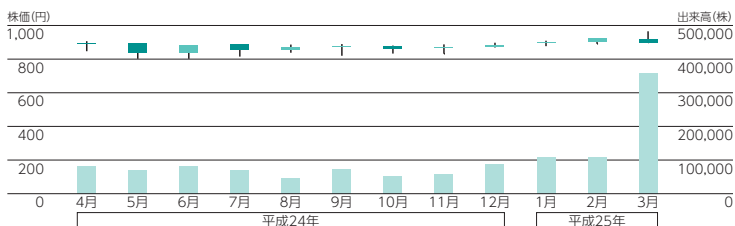
株 主 名	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社 マースエンジニアリング	804,000	8.21
セ コ ム 株 式 会 社	450,000	4.59
日立オートモティブシステムズ株式会社	380,000	3.88
株式会社みずほコーポレート銀行	300,600	3.07
栃 本 京 子	300,000	3.06
山 村 秀 彦	268,500	2.74
株式会社マーストークンソリューション	265,000	2.70
竹 田 和 平	222,200	2.26
高 千 穂 交 易 従 業 員 持 株 会	221,590	2.26
明 治 安 田 生 命 保 険 相 互 会 社	216,000	2.20

(注) 当社は、自己株式349,717株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式数を控除して算出し、小数第3位以下を切捨てて表示しております。

● 株式分布状況



● 株価・出来高の推移



株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 期末配当金 3月31日
受領株主確定日
- 中間配当金 9月30日
受領株主確定日 (中間配当を実施する場合)
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711
(通話料無料)

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

特別口座に記録された株式に関するお手続き用紙（届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等）のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。
TEL：0120-244-479（通話料無料）
インターネットアドレス：<http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
- 公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL
<http://www.takachiho-kk.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
- 1単元の株式数 100株
- 株主優待制度 毎年3月末時点で100株以上保有している株主様に一律お米券3kg分を贈呈

第62回定時株主総会決議ご通知

平成25年6月26日開催の当社第62回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご通知申し上げます。

記

報告事項

1. 第62期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）事業報告及び連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第62期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）計算書類報告の件
本件は、その内容について報告いたしました。

決議事項

議案：剰余金処分の件は、原案のとおり承認可決されました。

第62期期末配当金のお支払いについて

第62期期末配当金は、1株につき12円と決定いたしましたので、同封の「期末配当金領収証」によりお支払いいたします。つきましては、払渡期間内（平成25年6月27日から平成25年7月31日まで）に、最寄りのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りくださいますようお願い申し上げます。

既に口座振込をご指定の方には、「期末配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」を同封いたしましたので、ご確認くださいようお願い申し上げます。

株主の皆さまの声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2676

いいかぶ

検索



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社 a2media についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900（平日 10:00～17:30）MAIL:info@e-kabunushi.com



〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目2番8号

TEL 03-3355-1111（代）

URL <http://www.takachiho-kk.co.jp/>

